

令和7年度 第1回江北町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年4月14日（月）15:00～16:00
- 2 場 所 公民館2階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	吉田 功
3	教育長職務代理者	浪瀬 隆一
4	教育委員	重松 亜須香
5	教育委員	溝口 泰弘
6	教育委員	田中 薫

【こども教育課・学校づくり推進室】

番号	役 職	氏 名
1	課長（兼室長）	坂元 弘睦
2	課長代理	峯 清美
3	係長	野田 あゆみ
4	主査	山口 香奈
5	主任指導主事	内川 梨恵子
6	専門員	牟田 久俊

【事務局：総務政策課】

番号	役 職	氏 名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	課長代理	小野 政己
4	係長	大塚 健司
5	主査	古賀 元気

4 議題 令和7年度の教育課題解決に向けた取組について

○開会（山中課長）

○挨拶（山田町長）

今年度は具体的な取組の進行管理として行う、4月からそれぞれの項目ごとに月1回情報共有しながら意見を反映していく様にする。

—教育支援センターについて—

【こども教育課 山口主査】

- ・教育支援センターの利用状況の報告について見学者5名(小学6年生:3名、中学2年生:1名、中学3年生:1名)。
- ・2名(小学校6年生:1名、中学校2年生:1名)の通級申請を提出し、2名通級を開始し、随時学校とも共有をしている。
- ・毎週水曜日は学校チャレンジデーとして教育支援センターは閉鎖状態だが無理に進めるのではなく、指導員さんに声かけしてもらい段々と浸透していく様な試みをしている。
- ・長期休業中は閉所、広報5月号に教育支援センターの事についても掲載予定、マチコミにも流すようにしている。

【山田町長】

- ・長期休業中は職員はいるのに、休みにしなければならないのか。

【牟田専門員】

- ・基本的には休みになりますのでアウトリーチや家庭訪問による支援に力を入れようと思う。

【山田町長】

- ・閉所しなければいけないか。元々学校に行けていないから、長期休業も閉所すると1か月半ほど間が空く。

【牟田専門員】

- ・希望があれば補習学習したり学習会開いたり普段学校に行っていない子ども達なので、学習面でも追い付ける様な支援は必要。
- ・継続しては来る義務付けはないと思います。

【重松委員】

- ・出席日数にはカウントされるのか。

【牟田専門員】

- ・カウントはされない。

【山田町長】

- ・出席日数にカウントされないから閉所するというのは違う。
- ・学校に行けてないのに休みの時は学校と同じ様に、開所しませんというより、継続的に開所していたほうがいいと思う。
- ・毎日学校に通える程は教育支援センターに来ないと思う。元々水曜日休みなので、長期休業中も教育支援センターを開所したからといって、学校に行っている子ども以上に通う事にはならないのでは。
- ・他の所がそうしているからといって、江北町も同じようにするべきなのか。

【牟田専門員】

- ・初年度なので子ども達のニーズを見ながらする。
- ・正式には固まっていないが基本的には開所してもなかなか来ないだろうかしっかり取組をしないといけないと思う。

【山田町長】

それは普段は来ているのに長期休業中だから来ないと言うことか。

【牟田専門官】

教育支援センターには来ない。

【田中委員】

- ・不登校になりやすい子どもは長期休業後に昼夜逆転したり、休みが当たり前になって朝起きれなくなったり来られなくなったりする。逆に行くのが習慣ということで教育支援センターがあった方が休みがちにならないのでは。
- ・長期休業の後に学校に行きたくないという子が増える傾向。長期休業中に行くところがあった方が、生活リズムが整う様な気がする。

【坂元課長】

- ・子どもたちからすれば、他の子が休んでいるのでその子と遊びたいと言うのがある。ただ、生活のリズムもあると思うので、開所するのもありかなと思う。
- ・他の子は休んでいるのに、学校ではないが、自分だけ教育支援センターに行かなければならないのか。という意見があった。

【山田町長】

- ・どんな目的で開所しているのかと考えた時に、適応指導教室的な発想だと、そういう事かもしれないが、今回設置したのは少し広い目的で行っている。
- ・来ないなら来なくていいからと言って開所しないと言う事ではない。
- ・長期休業中は職員も出勤はしているのか。

【吉田教育長】

- ・希望があればスタッフが対応するという確認をした。

【山田町長】

- ・「希望があれば開ける」と「いつも空いている」では姿勢が違うのではないか。
- ・元々職員は出勤するから開所することで何か困りごとはあるのか。例えば、年間のカリキュラムが決めているとしても「希望があれば」というより、「学校は休みだけど開けている」というのがいいのではないか。夏休み期間中の「ひとり親家庭のための学習支援ボランティア事業」と同じ様に。

【溝口委員】

- ・保護者と子ども自身のニーズに対応するのが良いのではないか。
- ・夏休みの宿題なども教育支援センターが開所されていればすることもできる。
- ・親からすれば仕事で家にいないので、教育支援センターに預けた方がいいという考えもある。
- ・1年目だからその辺の様子を見てからでもいいのではないかと思う。

【山田町長】

- ・初年度に開所をしてみて、ニーズがなければ来年度のことを考えても良いのではと言うこと。開けている・開けていない関係なく、支援員にはしてもらうことはある。開けていないから支援員が休みとなることはない。
- ・長期休業中から通いたい子どももいるのではないか。

【牟田専門員】

- ・武雄市は十数年経験があるが、結果的には誰も来なかったと言うことで閉所となっている。江北町はスタートしたばかりなので、初年度は夏休みも開所し、来年度以降は今年度の結果を踏まえた上で判断する。
- ・運営協議会を学校の先生・教育委員を含めて開催予定。状況見て夏休みも開

ける方向で協議をしていきたいと思う。

【田中委員】

- ・ 支援員は、夏休み期間は出勤しているのか。

【牟田専門員】

- ・ 職員は出勤する。閉庁日は休みだが、それ以外は開ける事は可能。
- ・ 研修や2学期以降の準備が必要ということで閉所ということにしていたが、開けた方が、教育的効果があると言う事であれば支障はない。
- ・ こちらが先入観で夏休みは来ないだろうと決めつけていたのが事実です。

【重松委員】

- ・ あえて、閉所と案内をしないで研修や2学期以降の準備等で休む場合は、いつも通っている子ども達には事前に「今日はいない」と案内する形で対応したほうがいい。閉所と案内をすると、保護者としても1日中家にいるよりは、教育支援センターに通ってくれた方が安心する。

【山田町長】

- ・ 生活パターンや生活習慣で行けてないお子さんがいるとすれば、やっとなら教育支援センターに行くことに慣れて来たころで、夏休みは閉所となると、学校と同じようになる。夏休みは自由通級期間でいいと思う。予算的に問題ない、業務的に支障がないと言う事であれば通年でやってみてはどうか。

【牟田専門員】

- ・ そう言った意見があると言う事で前向きに考えたいと思う。

【山田町長】

- ・ 総合教育会議を毎月するので相談中、接触中あるいは通級中とか管理をしてほしい。

【牟田専門員】

- ・ 来月には報告出来るようにする。

【山田町長】

- ・ 4月開所してこれだけ相談があっているという事は、町として今まで町民のニーズに答えきれてなかったと思う。反省すると同時に長期休業中も安心してもらうようにした方が良く思う。

—学力向上について—

【山田町長】

- ・ 議会で英検は全員受験させるのかと質問があった。試験は、10月3日（金）の平日に学校の授業の時間に試験するようにしている。全員受験してもらいたい気持ちもあるが、全員受けるように働きかけするが、それでも強制はしないということ。

【牟田専門員】

- ・ 学習状況調査や SAGA テストなどと同列に考えている。基本的には受験機会を全員に与える。学校の行事中間・期末テストと同じ行事として取組む。

【山田町長】

- ・ 試験は学校の行事、対策講座は教育委員会の事業でやるということ。その時に何か意見はあったか。

【牟田専門員】

- ・ 小学校6年生についての意欲喚起について質問があった。中学校は全員受験になっているので、授業の中で声掛けや、自分で選んで受験学習していくが、小学校6年生は塾に通っている子ども達や英会話教室に通っている意欲の高い子ども達を対象にしているため、他の子ども達への意欲喚起をどうするかが課題。

【山田町長】

- ・ 中学生は全員受験だが、中学1年生は第3回から受験をするということ。
- ・ 4月から「ひとり親家庭のための学習ボランティア」で中学3年生に英語を教えているが厳しいと思う。英検の資格とるのが目的ではなくて学習習慣をつけることや、目標を持って英検に取り組む事が大事で、初期の目的を見失わない様にしてほしい。
- ・ 学習意欲を削ぐという事にならないようにした方がいい。本来だったら模擬試験をしてみて自分がどの位の級なのかを知り、目標を決めてもらった方がいいのではないか。
- ・ 級ごとに学習会を行うなら学年が混在する。教育的な配慮も行わなければならない。中学3年間の間に5級から3級の1つは取得する事業にしないとけない。

—一部活動の地域移行（地域展開）について—

【牟田専門員】

- ・大町町と合同部活動が4月から開始。1，2名大町町から来る。1名はすでに来ることが決定している。
- ・今後の検討課題の4つの部活動を大町町と協議を早く進めたいと考えている。
- ・地域クラブとの日程については今後の地域クラブに対する支援がどういった優遇・支援ができるものか検討する。予算・優遇措置など概略ができ次第、説明会を実施し地域クラブの募集を始める。
- ・優遇措置については、施設の利用料減免がニーズ高い。利用料の減免や保険料など将来的には保護者負担伴う指導者の謝金支払いできるような体制整えていく。このことについて協議を行い、決まった段階で地域クラブの募集を行う。

【山田町長】

- ・地域クラブの認定を早くしないといけないが、当初予算が付かない。地域クラブ認定を行うとなった後に、人件費などを含めて議会に言わないと何も決めないでスタートをするのかと言われる。議会の承認だけはとれるようにしておかないといけない。来年度の当初予算を目標にするなどスケジュールを組んで行うべきではないか。

【牟田専門員】

- ・課内でも6月補正に出した方がいいのではないかという意見もある。そこも含めて急ぎたいと思う。

【山田町長】

- ・6月補正で実施できるのか。
- ・意見交換会やいろんな事例を調べるなど研究してある程度固まってからがいいのではないか。
- ・合同部活動のスケジュールはどうなっているか。

【牟田専門員】

- ・両中学校の意向を確認したうえで大町町との協議を進めていきたい。
- ・意向については、話してみないと分かりませんが、学校の立場としては希望者が現在いないのになぜ協議をするのかと一番にきますが、私たちとしては準備しておかないといけない、準備する方向でいる。

【田中委員】

- ・江北中学校でできないことを大町中学校でできることを子ども達には伝えているのか。

【山田町長】

- ・伝えてない。合同部活動をしていきたいということは伝えているが、子ども達知っているのは、バスケットボール男子と剣道の女子のみ。それ以外のことは伝えていない。
- ・希望がないのになぜしなくてはならないのかと言われるが、希望できると思っていないから希望していないだけです。

【山下副町長】

- ・江北町にあるもの、ないもの。大町町にあるもの、ないもの。大町町に行けばあるかもしれない。できるかもしれない。というのを見える形にしてお知らせをする。

【牟田専門員】

- ・4つの部活動を協議予定部活動として上げて準備をしている。

【山田町長】

- ・部活の地域展開は教育長の名前で行うのに、学校の意向は聞かないといけない。それは、どう言う事か。
- ・意向調査してみてもどうか。「部活動でこれをやってみたい」という人がどれだけいるのかを聞いてみる。教育支援センターの長期休業中に開けるか開けないかの話で希望があれば開けます。ではなく、開所するという事が将来の希望にも答えると言う事にならないか。自分で見つけてきて大町町の部活に参加したいなど自分から積極的に探して言える子ども達はそんなにいないのではないか。

【坂元課長】

- ・同時並行で進めないといけない。
- ・顧問の先生方が、本当に江北町の生徒が来た時に対応できるようにしていけないといけない。大町町の部活動の受入体制を整えながら子ども達の意向を聞いてそこがマッチングしないと進めない。

【山田町長】

- ・同時並行で進めないといけないと思っていない。
- ・人数が足りないから他の所と一緒にするのではなく、江北町のこれからの部活のあり方として大町町と一緒にしなければならない。

【重松委員】

- ・バスケットボール男子に関しては希望者がいたから実行に移せたと思う。
- ・他の卓球・ソフトテニス・吹奏楽とかは希望者はいるかもしれないけど。と

言うところ。

- お互い大町の方も江北の方もどう進めていかと言うところで足踏みしている状態。
- 体験入部を両校で行ってもいいのではないか。1週間から2週間位そういう期間で、お互い交流をしてみて、やっぱりこれだけ希望者がいるからやりましょうと言う方が早いと思う。
- どの部活も来ていいですよと言う形にする方がお互い大町町も江北町も動きがしやすいのではないか。希望もないのに受け入れますよと言うのは学校の現場からすると色々戸惑うところもあるのかなと言うところで体験入部を実施してみてはどうか。

【山田町長】

- いいと思う。本当に希望してもらうためには体験してもらうことが大切。実際に体験をしてこの部活にしたいと言う子ども達が出て、その希望があって合同部活動で行うことを決めるのならいいが、今何も動いていないのに希望がないからと決めつけて何もしないというのがおかしいのではないか。

【重松委員】

- 1週間お互い行き来できるような日程を組んでもらったら行ってみようかなと言う子供もいるのではないか。日程などは大町町に相談をしないといけないかなと思う。
- 希望者がいるところは取掛かりがしやすい。なかなか言い出しにくい部活は何か希望者が手を挙げやすいきっかけづくりがあればいいと思う。

【溝口委員】

- 体験会いいと思うが、個々のクラブチームが募集などを行っていると思う。別にそんなにしたらいけないとかじゃなくこっちで決めなくてもそのまま軌道に乗るのではないか。私のところもバレーボールでお世話になっているが、大町町の方にチラシ作る話も出ている。だから地域クラブの認定の方を早くしてもらった方がいい。
- 部活動も一緒に、実際のところ部員が足りなくて試合出られないよと言う事であれば一緒に出るしかないと言う話になっている。協定を結んだからには、あまり縛らなくてもいいと思う。

【山田町長】

- それを地域クラブに委ねるかは次のステップ。今それぞれやっている部活でまっすぐ地域クラブもある。目的趣旨まで共有して実施ができているかなと思っている。

—施設老朽化—

【山田町長】

- ・優先順位を付けて概ね3年間で10億円と聞いている。町にとっては大きな事業になる。10億円と聞くとびっくりするが、新しく建てたら80億円。さっそく6月補正で挙げると聞いている。
- ・施設改修と設備改修あるが全部含めて優先順位を付けてもらうように教育委員会にはお願いをした。
- ・LED化については県のPTA連合会から寄付を頂いたものですからそれを活用して改修改築とは別に、学校を明るくする取組は別管理でやった方がいいのかなと思う。
- ・次回の総合教育会議では6月補正予算の報告や部活の地域移行の進め方、支援センターの対処について協議する。

○閉会（山中課長）